

吉野復興大臣 JR 上野駅訪問ぶら下がり会見録
(平成30年5月24日(木) 11:25~11:29 於) JR 上野駅)

1. 発言要旨

JR 東日本の御協力で、「三陸産直市」、今回が11回目だそうです。ですから、JR 東日本は、東北の復興のために御尽力をいただいております、本当に感謝を申し上げたいと思います。

実際の産直市では、青森、岩手、宮城の各県の産品を見させてきましたけど、買い物かごいっぱいになるくらい、特にビールのつまみを中心に買わせていただきました。今晚、楽しみにしています。東北地方は本当においしいものがたくさんございます。そういう意味で、大消費地であるこの東京、東北の玄関口であるこの上野駅で産直市が開催されたことは、本当に意義のあることだと思っています。

以上です。

2. 質疑応答

(問) このように、いわゆる被災地の外、特に大消費地の東京でこういうことをやられるのは、大臣も挨拶でおっしゃったように、当然、被災地のPRになるかと思えます。それ以外にも、例えば、風評被害の払拭、あるいは、震災の風化防止などにもつながると思います。今後、被災地の外でこういう消費イベントを開催するに当たって、復興庁としての支援としては、どのようなことをやっていきたいかという考えをお願いします。

(答) はい、今おっしゃるように、風評被害対策、そして風化対策、には、大消費地である東京で開催することが一番情報発信になるかと思えます。そういう意味で、今後も復興庁としていろいろな、できる限りの支援をしていきたいと思えます。

実は、復興庁で「ハンズオン支援事業」というものがございます。このハンズオン支援事業というのは、大企業、上場会社から、復興庁の本庁に約15名、職員として派遣されておりまして、その方々の自社ノウハウを生かして、新商品の開発から、販売、生産体制などを支援しているものです。例えば、名刺1枚、このような名刺では、取引先やお客様へインパクトを与えることが難しいので、こういう名刺を作ってはどうかでしょうかなどという、そういったところも支援していく事業がございます。今日の産直市でもハンズオン事業で開発した商品も見させていただきました。

こういう形で、これからも産業・なりわいの再生、そして、販路拡大、これらがこれからの復興庁の大きな仕事になりますので、これからも続けていきたい、このように考えています。

(問) すみません、ちょっとつまらない質問ですが、今日いろいろお買いになりましたけど、今回売っているもので大臣の一押しは何でしょうか。

(答) 一押しは、蒸しホヤですね。先日、初めて食べたんです。いやいやいや、おいしい。今までホヤはみんな韓国に輸出されていて、我々日本人の口に入らなかったんですけど、先日頂いて、韓国に売らなくてもいい、我が日本人で消費をすれば、宮城県のホヤは全部売り切れる、そのくらいおいしいものです。今晚、ビールが楽しみです。

(以 上)